



コミュニティ しずおか

2019

1月

No.153



地域をつなぐ伊太梅まつり

ふる里伊太を明るくする会
(島田市)

▼島田駅から車で20分のところにある伊太地区は、「梅の里」と呼ばれる県内でも有数の梅の産地である。真っ白に咲き誇る2月中旬、地区特産の梅に感謝し、お祭りを通じて地域住民の連帯感を高め、災害時に助け合える明るいまちづくりの醸成を目的に「伊太梅まつり」が平成元年から開催されている。

▼この日の為に8町内会がそれぞれ特色のある店を出し、ステージでは区内にある伊太小学校の児童や島田樟誠高校応援団がパフォーマンスで盛り上げる。梅まつりらしく、来場者には漬け梅が入った「竹筒うめ」と「梅の小枝」の無料配布があり、大人気のため配布時間を分散させている。竹は地元の方から、梅の小枝は生産者組織の「梅部会」が用意してくれる。また駐車場の整理には、地元企業からの応援もあり、地域が一丸となってお祭りを盛り上げている。

▼主催の「ふる里伊太を明るくする会」は、全世帯(682)が会員である。自治会とは別に環境美化活動、区民体育祭、親睦旅行、梅まつりの事業を開催。代表の佐塚さんは「活動を通じて若い世代が地域に関心を持って一緒に盛り上げていきたい」とおっしゃっていた。

※今年は平成31年2月17日(日)伊太新東名高速道路高架橋下広場で開催します！

◇代表:佐塚充洋さん(問合せ・0547-37-2345)【情報提供・池田 弘】

Topics トピックス

活動賞審査結果…………… P2~3
平成30年度「コミュニティ活動賞」
審査結果

クローズアップ(松崎町) ……P6

地域訪問記(浜松市天竜区) … P7



のりづき・りえ

平成30年度「コミュニティ活動賞」

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」の審査結果は、ここで紹介する優秀賞3団体ほか、別表のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の表彰式を平成31年2月16日に開催するコミュニティフォーラム2019の席上で行います。

山田川流域を愛する人を育てる

山田川グリーンツーリズム研究会(三島市)



山田川流域の自然とふれ合う機会を提供

「山田川自然の里」は、国の交付金を受け、平成18年度から3ヶ年かけて、山田川の織り成す自然環境を活かし、放棄されていた田畑などを農業体験ができるよう行政と市民が連携しながら環境整備を行い、平成21年4月に全面開園した。この事業に携わった地域住民やワークショップに参加した市民有志により、同年4月1日に当研究会が設立された。

会の設立後、自然環境の保全を図るとともに、稲作や梅の収穫体験をはじめ、土や植物などに触れ、親子で自然を楽しむ「どろんこはらっぱ」や親子でゆっくりお散歩を楽しみながら野遊びや畑づくり、絵本などの活動を通じ自然を楽しむ「おはさまはらっぱ」等のイベントを年間40回開催し、延べ1249人が参加している。

「山田川自然の里」を食育、農育、環境教育の場として活用し、幼児や子ども、青年などの若い世代に里山の素晴らしさを伝え、里山の美しい景観を次世代に受け継いでいる。また、多くの人が交流を深め、仲間づくりをする機会を提供している。

花と香りに包まれた歴史の郷・山の手

焼津市山の手未来の会(焼津市)

我が郷・山の手地区(策牛・関方・方の上)の高草山山麓には、数多くの有形無形の文化的財産・遺産がある。

平成8年、美しく歴史のある郷を再確認し伝え、「自分たちが今できる事」を実行していこうと地域住民が声を上げ発足した。

主な活動は「古代光通信狼煙揚げ」「ふるさと探訪と蟬梅の香りを聴く会」「山の手さくら祭り」があり、特に平成15年から始めたさくら祭りは、期間中に約5~6万人が来場する焼津における観光名所として認知されている。

これにより、近隣地域も注目されるようになり、高草山周辺の歴史価値が見直され、周辺山城も発掘が進められるようになった。また、会の活動が地域を盛り上げることで会員自体も楽しみ、それが地域の方々や訪れる方への楽しみにも繋がっている。

平成29年からは市が主催する「まちづくり市民集会」の実行委員会にも加わり、地元のみならず市全体に視野を広げ地域の活性化に向け精力的に活動をしている。



朝比奈川に200本植え、「山の手桜」と名付けた

若者が互いに協力し、互いに学び、成長するコミュニティを目指す 若者いわたネットワーク(WIN) (磐田市)



会員60人。18歳～35歳までの若者が活躍

昭和63年から「ファミリーフェスティバル」という名で毎年開催されていた「いわたゆきまつり」は、平成18年にこの行事を支えていた地元青年団が休会したことで存続の危機に直面した。

そこで「いわたゆきまつりをなくすわけにはいかん」と有志が立ち上がり継続することとなり、その後、冬だけでなく年間を通じて地域の為になり、高校の文化祭のように楽しい活動をしたい!とWINを立ち上げ活動を始めた。

主な活動は、いわたゆきまつり、磐田市内美化活動。その他、市内の他団体から声を掛けられ、一緒に活動をしている。

会では「若者」という同じ土俵で語り合える年代が35歳あたりであると考えているため、35歳定年制を設けている。結果、卒業がある事で後を託す気持ちでアドバイスを惜しみなくでき、自然に世代交代が行われていることにもつながっている。市内に誕生した新たな若者グループや磐田青年会議所等との協働により磐田市を今以上に活気のある街に盛り上げていく。

優良賞

- こども食堂富士見台 (富士市)
- 中田・馬淵女性防災ネット (静岡市)
- 牧之原市花の会 (牧之原市)
- 西山口地区福祉協議会
(西山口地区まちづくり協議会傘下組織) (掛川市)
- 掛川第三地区まちづくり協議会 (掛川市)
- 学習支援曳馬ボランティア委員会 (浜松市)
- 可美校区子ども会世話人連合会 (浜松市)

奨励賞

- 久連勇踊り保存会 (沼津市)
- 「五月町自治会地域巡回活動」
推進グループ(沼津市)
- 牧之原公園マルシェ実行委員会(島田市)
- 掛川第四地区まちづくり協議会 (掛川市)
- 和合町自治会 (浜松市)

審査総評 (川口良子審査委員長)

本年度は10市から15団体の応募があり、結果は優秀賞3団体、優良賞7団体、奨励賞5団体となりました。

審査方法は、あらかじめ各委員が応募資料をもとに、審査基準である地域性・主体性・普遍性・発展性・独創性、活動実績について事前評価を行い、審査会での評価を審議し、各賞を決定しました。

今年度の特色としては、自治会、地区社会福祉協議会、花の会、子ども会等、長い歴史のある地域団体や、歴史は短いものの若者や女性が中心となる団体など、応募団体の多様さが挙げられます。そして、それらの活動内容は、多様化する地域課題に、様々な団体が真摯に取り組んでいる状況が伺えるものとなっており、中でも子どもへの支援に取組む活動が多かったことが特色として挙げられます。

応募総数は昨年と同数でした。加えて、昨年と同様、伊豆地域からの応募が無かったことが課題といえます。次年度は、より広範な市町の方々からの積極的な応募を期待しております。

小山町

体を動かし頭を使い心癒されに来ませんか～

認知症サポーター
きずな



トランプで盛り上がる参加者

▼毎月第2木曜日10時～12時に小山町健康福祉会館で開催されている「オレンジカフェきずな」は、認知症を理解し皆で支えることを目的に、認知症の方やその家族、地域の住民など誰でも自由に参加できるカフェ。町の後援を得ながら今年で3年目を迎えた。

▼毎回4、50人が参加しており、音楽を楽しみ、身体を動かし、良く笑い、お茶を飲みながらおしゃべりしていると時間はあっという間に過ぎてしまう。「気軽に物忘れなど心配事の相談が出来て良かった」「一人暮らしなので話が来て嬉しい」などの感想が聞かれた。会員たちも「自分の将来に役に立つ」「楽しい」という。地域住民にとって、自分が認知症になっても利用できる場があるという安心感を与えている。

▼主催の認知症サポーターきずなは、町主催の「認知症サポーター上級講座」1期生の修了者が立ち上げた団体で、50～70代の男女の会員が企画運営を行っているが、一人一人が主役なので代表は立てていない。

◇(問合せ・0550-76-6669(小山町介護長寿課)) 【情報提供・勝亦智子】

富士市

マジックの不思議と楽しさの出前

富士マジッククラブ



新聞紙を使用したマジックを披露

▼富士市で最初のマジッククラブとして誕生し、今年で30周年を迎えた団体で、現在会員18人(女性12人、男性6人)。月2回の練習だけではもの足らず、更に自主練を2回追加している平均年齢65歳の活気あふれる団体である。

▼去る11月17日に発足以来初めて一般対象の「マジック講座」を開催。会員が講師となり、マジックの楽しさを伝え興味を持ってもらい新規会員を増やすことを狙い企画した。マジックの腕前には自信があったが初めてのことで集客にドキドキするも、ふたを開ければ大人28人、子ども10人の参加があり大いに盛り上がった。集客にあたり「忘年会新年会でのかくし芸に!」とチラシに表記し、新聞紙や輪ゴムでお金が掛からずできるものを用意するなど工夫した。

▼マジックは、人とのつながりをスムーズにし、その不思議さや楽しさは人の心をとらえ、工夫次第でマジックも進化してゆく。この魅力が、長期に渡って活動が継続されている秘訣であろう。

◇代表:常盤牧子さん(問合せ・0545-61-7883) 【情報提供・西山幸子】

藤枝市

学習支援教室「亀城子屋」

西益津地区
社会福祉協議会



楽しく真面目に学ぶ中学生たち

▼西益津地区交流センターでは、毎週土曜18時30分～20時まで、塾に通っていない中学生を対象にした学習支援活動、寺子屋ならぬ「亀城子屋」を開催している。講師は近隣の大学生12人と地域のボランティア2人からなる。

毎回5、6人の講師で、1人で2、3人を担当する形をとり、生徒は自分が学びたい科目を各々取り掛かり、わからない部分を講師に聞くというやり方で行っている。地区の中学生を対象に考えていたが、他地区からの問い合わせもあり、西益津中学校以外の子も含め17人が通っている。

▼平成29年度から始まり、資金は民間の助成金を利用して大学生の交通費などに充てている。来年度の資金についての課題もあるが、会では、「子どもたち一人一人に寄り添い、子どもたちの向上心、自立心を芽生えさせるきっかけづくりに力を入れている」という。

※名前の由来は、地区にある田中城の愛称の「亀城」から

◇代表:松永 功さん(問合せ・054-641-8862) 【情報提供・大石幸雄】



島田市

神楽が繋ぐ地域の歴史と絆

横岡八幡神社
神楽保存会



週2回、2時間の練習に励む会員

▼残暑厳しい8月の夜。金谷地区北部にある横岡八幡神社から、10月の祭典に向けお囃子の音が聞こえ始める。500年以上の歴史のある神社には、「四方の舞」という全国的にも珍しい男児が1人で力強く舞う神楽(市指定民族無形文化財)と女兒が2人で優雅に舞う神楽があり、この伝統芸能を継承しているのが神楽保存会である。▼会員は30～70代の男性26人、女性1人。現役の方が多く集まりにくい面もあるが、在籍40年の持塚代表は「横岡の神楽が元気なのは、和気あいあいと献身的に取り組んでいるから」と嬉しそうに話された。会員同士は、会を通じて日常でも親しくなっていく。

▼保存会では、年長～小学校6年生の男女各15人を指導。奉納という神聖な気持ちと達成感を持ってもらうために、厳しくも温かい指導を心掛けている。次第に柔らかな上手に踊れるようになっていく姿は感慨深いとの事。

▼昨年、十数年ぶりに2人の若者が入会。数年後には更に力強いお囃子を皆さんに披露するだろう。今後も先人から受け継いだ伝統だけでなく祭りを軸とした地域の絆も継承して欲しい。

◇代表:持塚秀康さん(問合せ・0547-45-2901) 【情報提供・北川 明】

湖西市

今こそ動き出せ!私たちの横山

お祭り盛り上げ隊



柔軟なアイデアが飛び出す企画会議

▼湖西市横山地区の赤岩神社例祭の宵祭りで活躍する中高生の有志団体「お祭り盛り上げ隊」は、かつては賑やかだったお祭りの存続に危機を感じた世話人の石田さんが、中高生を企画参加させて祭りを盛り上げてもらうと呼びかけた団体である。

▼今年は中高生4人を中心に、大人3人、幼児と特別支援学校生も加わり仮装大会の他、新たに「ご当地キャラクターの投票」を提案。プログラムの作成やポスティング、地元の商店へ仮装大会商品の寄付のお願い等を行った。

盛り上げ隊に参加した感想を聞くと「親の送迎が無いと参加できない子もいて人集めが大変だった」「一緒に盛り上げてくれる人が増えた」「皆で楽しめるようになった」「大人の意識が変わった」という。実際仮装大会をすることで地区外からお祭りに参加する子が増えている。

▼学生は、考え方が柔軟でアイデアが斬新!「今こそ動き出せ!私たちの横山」のスローガンの様に、いつか青年部が復活し、地域の活性化を担ってくれることを石田さんは願っている。

◇世話人:石田智子さん(問合せ・090-1280-6739)

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます(アドレス <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣 旨・目 的	月 日
1	西伊豆町	手話の勉強をはじめて	手話サークル「つわぶき」	ろう者への理解と交流、地域活動参加の助けをしたい。	月2回 第2・第4月曜日
2	松崎町	松崎稲作塾オープンデー	松崎稲作塾	現役有機農家が農の魅力を実技と座学でレクチャーする。	平成30年10月16日(火)
3	松崎町	桜葉の可能性を探る、桜葉料理試食会	桜葉ファン倶楽部	桜葉の新しい可能性を探るため、料理を開発し提供する。	平成30年10月30日(火)
4	伊豆市	地産地消で地域活性のお手伝い	伊豆市修善寺湯舟区上湯舟婦人会	自作の農産物を活用して弁当をつくり、訪れた人をもてなす。	春(5月)と秋(10月)の日曜日 計6日～8日開催
5	沼津市	地域の文化を美術でつなぐ	E N (エン)	地域の文化と文化をつなぐこと。人と人をつなぐ場所の提供。	月1回
6	静岡市	自由に、楽しく、自主的に! 田んぼづくり塾	清沢塾	里山の自然復活を目指す。	定例会: 毎月第2、第4土曜日
7	焼津市	伊井直孝は焼津市中里で産声をあげました!	中里倶楽部	地域の人々に認知され、まちづくりの気運をあげていく。	月1回
8	島田市	人の心と川根のまちにあかりを燈す	あかりアートの会	温かい灯りを楽しんでもらい、観光振興の一役を担いたい。	平成30年11月24日、25日 毎年11月
9	島田市	手づくり屋台が祭りを盛り上げる	伊太八幡神社氏子町内会	祭を通して地域住民同士の団結力と地域活性化を図る。	平成30年10月7日(日) 毎年10月第1日曜日
10	川根本町	南アルプスあぶとラインのプチ旅 & 長島ダム見学ツアー	大井川長島ダム流域連携協議会	長島ダムの役割と周辺地域の魅力を理解してもらう。	平成30年10月14日(日)
11	御前崎市	めぐみ公園を地域の力できれいにしよう	「新野水のめぐみ公園」管理組合	地域の交流の場として愛される公園づくりを目指している。	通年
12	菊川市	ふれ愛スポーツ大会開催します。	加茂コミュニティ協議会	地区住民の親睦と交流をスポーツで深める。	平成31年2月17日(日) 9:00～14:00
13	菊川市	加茂地区雪まつりにおいて	加茂コミュニティ協議会	地区住民の親睦と交流を深め、住み良い地域づくりの一助とする。	平成31年2月2日(土) 9:00～14:00
14	掛川市	シニアの活躍の場! 祭典餅つき	シニアクラブ岩滑明和会	シニアの祭典への参加を促し楽しい時間を過ごしてもらう。	年1回
15	磐田市	どなたもぶらっとお立ち寄りください	三世代ぶらっと	気軽に立ち寄り、おしゃべりする場所の提供。	月1回程度活動

クローズアップ

創意工夫や新しい手法を活かしている
団体を紹介します。



種まきに
参加して下さった
有志の皆さん(一部)

例年の花畑写真
今年も
期待してください

秋晴れの中
種まきが行われた



新たな手法で、みんなの花畑を作り上げよう！

～種を蒔く人プロジェクト～ 松崎花畑実行委員会 (賀茂郡松崎町)

12月のとある日、天城トンネルを南に抜け県道15号を進むと、川沿いの桜並木が見えてきた。この時期、この辺りが松崎町を代表する観光のスポットであるとはわかりにくい、閑散とした田んぼを見ると緑が生えている。あと3ヶ月もすれば花畑に生まれ変わるという…。花畑を主催する松崎花畑実行委員会から、ご住職の田中さんと松崎町地域おこし協力隊としても活躍されている寺田さんにお話を伺った。

花畑の18年の歩みを経て

実行委員会は、3年前に花の咲き具合をもっと良くしようと花畑事業に携わっていた有志で発足した平均年齢40歳の23人の団体である。昨年18年間続いていた町の事業「田んぼをつかった花畑」が終了した。「子どもが大人になった時に松崎を自慢する花畑として残したい。何とか継続できないか」と若い実行委員たちで、みんなで作るみんなの花畑「種を蒔く人プロジェクト」の話し合いが続いた。でも、花の種を購入する資金もない。どうする？…そこででた妙案が「クラウドファンディング」だった。

クラウドファンディングとは

インターネットで、不特定多数の方々から資金を募る方法である。目標金額は種蒔き費用180万円。募集期間は1か月半。期間までに目標金額に達しなければ不成立となり取得資金はゼロという。今回、寄付額は3千円～10万円とし、お礼は現地での名前記載や来訪時の茶菓子サービスなどを設定。約207人の支援者から目標を超える195.9

万円が集まった。10月21日には、総勢150人近くの人々が参加し、3月に色とりどりの花が咲くことを願いながら種が蒔かれた。

達成までのグラフを見ながら説明を聞いているともっと詳しく知りたくなった。「そんなに簡単に資金が集まるの？」答えは、「簡単ではない」だった。大事なのは、新着情報をマメにチェックし応援コメントに返信し、途中経過の報告と今の状況も発信していくこと。でもそれだけでは、まだ盛り上がらない。やはり、口コミや住民・知人への寄付のお願い等の従来通りの人海戦術も駆使した取り組みあつての成果だと明かしてくれた。

種まきプロジェクトのこれからは

毎年6万人近くが訪れていることから、今後は駐車場の有料化等で自主財源を確保し、その範囲の中で開催することを目標にしている。「無料を有料にするって大丈夫？」と聞くと「お金を払ってでも行きたいと思わせる花畑を目指している」「種蒔き以外でも町民参加で地域を盛り上げたい」と力強く語る2人から松崎を盛り上げたい気持ちが真に伝わってきた。改めて若いってすばらしい！さて、3月にはどんな花畑とどんな賑わいがあるのか。今からワクワク期待しています！！

◇代表：端山智充さん(問合せ・0558-42-0745)

【情報提供・寺田健悟】



レポート：高村 光 編集委員



聞き手と語り部で作る「一期一会」の世界 やまんばの会（浜松市天竜区）

浜松市天竜区佐久間町。古代からの塩の道である秋葉街道を北上する山また山の静かな町である。

そして、この町は古くから民話の宝庫（約400話）で知られ、今もなお語り継ぐ「やまんばの会」が活動している。代表の小嶋さん、梅里さん、松本さん、佐久間の歴史に詳しく伝承館を守っている「NPO法人歴史と民話の郷さくまを守る会」の奥山さんにお話を聞いた。

拠点はやまびこ響く峠の古民家



料理ができる合間に披露。季節や客層を見て数ある中から相応しい民話を語る

活動拠点の『民俗文化伝承館』は、地区に残る江戸末期の農家古民家で、昔の暮らしをしのんだり、地産の蕎麦などの郷土料理を楽しむ施設。ここで月1回第2土曜日に料理が出来上がるまでの間、佐久間に伝わる民話を語り伝えている。

会の始まりは、伝承文化としての民話の価値に気づいた有志による「語り部の会」が発足（年代不明）。平成3年からは「やまんばの会」と名乗っている。当初は10人いた会員も高齢化により4人となった。仕事をしながら活動を担っているので、毎回全員揃っての活動は難しいのが現状である。

その他の活動として、伝承館で行う観月会での語りや袋井で開催する公演への出演、慰問活動、2年に1度佐久間の小学生に課外授業も行っている。

民話には現場がある

民話と昔話の違いを今回初めて認識した。昔話は広域に広がる話で本当かどうかはわからない。民話は事実に基づく事が重要で、地域の実名で表現されているのが特徴である。上記の小学校の課外授業は民話が生まれた「現場」で語るという究極のライブパフォーマンス。小嶋さんは

「民話は口承文化であって、語りによって次に伝えていかなければいけない」と熱く語っている。

今後の活動について、梅里さんは「地元の子どもたちにもっと語りをつうじて、民話を心に焼き付けたい」、松本さんは「演目を増やして、他の語り部の人の話を聞いて空気感を学びたい」と語っている。

語られる民話の数は50～60話。自分の言葉で語る「語り部」として、依頼があればできる範囲で出張公演もやっていきたいとのことである。

民話は口承文化であり、心の伝承芸能

今回、取材後に特別に「やまんばの会」の名前に由来した“やまんば”の民話を小嶋さんに披露してもらった。目の前で臨場感たっぷりの声色で語ってもらい、何やら悲しい話と私は感じたが、同行者は予定調和に安堵したと言う。そうか、語り部の数だけ民話があり、聞き手の数だけ民話は存在するようだ。民話は口承文化であり、心の伝承芸能でもあったと感じた。

※2月10日(日)13:30～袋井市月見の里学遊館「昔話を語り継ぐ仲間の集い」に出演します！



左からやまんばの会の梅里さん、松本さん、小嶋さんと伝承館を守る奥山さん

◇代表：小嶋直美さん（問合せ・090-5600-7035）

【情報提供・佐藤勝彦】



レポート：中村弘美 編集委員



1979年8月29日に設立したコミ推協は、今年40周年を迎えます。

これまでコミ推協の活動に対し、ご理解、ご尽力賜った皆様にお礼申し上げます。地域活動を応援する冊子として、県内様々な地域情報をお届けできるよう、より一層努力してまいります。

地域活動に関心のある方へ! 募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

コミュニティ・フォーラム 2019

つながりで元気になる コミュニティ

参加費無料

2019 **2/16** 土
10:00~15:00

会場 掛川市文化会館
シオーネ

掛川市大坂 7373 ☎0537-72-1234

少子高齢化、人口減少が進む中コミュニティづくりへの積極的参加、地域活動(社会参加)へのサポートを促し、元気な地域を取り戻すためには地域活動をどうしていけば良いかを考えていきたいと思っています。

プログラム

- 10:00 開会
- 10:15~ 表彰式
・平成30年度コミュニティ活動賞
- 10:30~ パネルディスカッション
・テーマ: つながりで元気になるコミュニティ
- 12:00~ 昼食・休憩
- 12:50~ ・30年度活動賞受賞団体による事例発表
優秀賞受賞
- 13:30~ 基調講演
「江戸時代の豪商や庶民から学ぶ地域活性化」
講師: 河合 敦氏(歴史作家・歴史研究家)
- 15:00 閉会

基調講演



河合 敦氏

「江戸時代の豪商や
庶民から学ぶ地域活性化」

●パネリスト

笠原浩世氏 NPO法人アートコーラルきくがわ(菊川市)
鈴木育代氏 ワンコインランチの会(掛川市)
菅沼孝行氏 西山口地区まちづくり協議会(掛川市)
中西恵美子 VC. にじのかけはし(磐田市)

●コーディネーター

神谷尚世氏 福祉イノベーション Do-zo 協同組合長

※参加には**入場整理券**が必要です。

※昼食 700 円で幹旋します。また、送迎バスを用意しましたので申込時に必要の有無をお知らせください。

問い合わせ、お申し込みは、静岡県コミュニティづくり推進協議会へ 電話 054-251-3585 / FAX 054-250-8681

★コミュニティ・フォーラム2019にて、 貴方の作品を展示してみませんか？

掛川市シオーネで開催する「コミュニティ・フォーラム 2019」において、ロビー等での「コミねっと会員作品展」の企画をしております。

コミねっとの皆さんといえば、多種多様な技術や趣味をお持ちの人材宝庫集団。お家や地域の中だけに埋まらせておくのはもったいない! 県内各地からやって来る方々に、貴方の(貴団体の)作品や日頃の活動をご紹介ください。

「貴方自身を発信して、 一緒にフォーラムを盛り上げましょう!」

募集出品

写真、手芸、陶芸、書道、コミねっと活動報告、広報紙、紙芝居 etc. (自由)

出展希望者

会員は個人でも団体でも受け付けします。

コミねっと会員以外の方も可能(要事務局相談)

※展示希望の方、まずは事務局にご連絡ください。

編集・発行

地域情報を
お寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階 [TEL] 054-251-3585 [FAX] 054-250-8681
[URL] <http://www.sizcom.jp> [E-mail] sizucom0829@po.across.or.jp